

2009年10月29日 第2四半期決算説明会

2010年3月期第2四半期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2010年3月期第2四半期連結業績と通期業績見込

単位:億円 (未満切捨て)	第2四半期(累計)			通期		
	実績	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	2,223	-205	-20	4,485	-260	-96
営業利益	75	-15	-0	151	-0	-15
経常利益	68	-18	+1	136	-5	-9
当期純利益	46	+7	+8	78	+17	+1
EPS(円)	15	+2	+3	25	+6	+0

1.売上高

注:(E)は今回発表した見込、前回(E)は7月28日に発表した見込。

①全体では8%の減収。消費の不振や単価の下落など景気後退の影響が顕著に現れた。セグメント別では新型インフルエンザの影響を受けた畜産や価格下落と取扱商材の絞込みを行った水産の減収幅が大きい。加工食品も業務用の不振が続く。こうした状況を反映し通期目標は前回Eからさらに96億円下方修正、前年比で260億円減収となる。

2.営業利益

- ①全体では前年比では15億円の減益だが、2Q累計目標はほぼ達成した。
- ②加工食品は惣菜向けの売上不振などで前年比5億円の減益、目標に対してもチキン加工品の採算改善が遅れたことから11億円と大幅な未達となった。
- ③水産は低採算商材の取扱い圧縮などで採算性を改善、目標を上回るが、前年は水産・畜産ともに収益水準が高く、両セグメントで前年比8億円減益。
- ④低温物流は地域保管が前年・目標とも上回る進捗で全体でも目標を3億円上回る。
- ⑤通期目標は前期実績並みとし前回E比15億円下方修正、加工食品の不振を反映する。

3.経常利益・当期純利益

- ①リース会計基準変更時差異がなくなったことに加えアセロラ飲料事業の売却益が発生し特別損益は前年比21億円の改善。

2010年3月期第2四半期セグメント別売上高・営業利益と通期見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第2四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回(E)比		(E)	前年同期間比		前回(E)比	
			増減	率	(E)	増減		増減	率	(E)	増減
売上高	加工食品	853	-47	-5%	877	-24	1,686	-54	-3%	1,724	-38
	家庭用調理品	232	-5	-2%	239	-7	463	2	0%	471	-8
	業務用調理品	408	-23	-5%	413	-5	831	-38	-4%	834	-3
	健康価値	49			55	-6	83	-17	-17%	102	-19
	その他	165			170	-5	309	-1	0%	317	-8
	水産	337	-57	-15%	334	3	690	-71	-9%	690	0
	畜産	384	-86	-18%	395	-11	809	-116	-13%	865	-56
	低温物流	695	-28	-4%	699	-5	1,395	-28	-2%	1,420	-25
	物流ネットワーク	371	7	2%	377	-7	746	24	3%	772	-26
	地域保管	232	-2	-1%	234	-2	458	-4	-1%	462	-4
	海外	84	-36	-30%	81	3	166	-58	-26%	163	3
	その他・共通	9	3	49%	7	1	25	9	53%	22	3
	不動産	35	-3	-7%	36	-1	70	-4	-5%	70	0
	その他	34	2	7%	33	1	68	2	3%	69	-1
	全社または消去	-115	15	—	-130	15	-233	11	—	-257	24
合計	2,223	-205	-8%	2,244	-21	4,485	-260	-5%	4,581	-96	
営業利益	加工食品	5	-5	-48%	16	-11	17	-3	-16%	41	-24
	水産	4	-4	-55%	1	3	7	4	155%	4	3
	畜産	3	-4	-57%	3	0	7	7	-2433%	7	0
	低温物流	41	-3	-7%	38	3	78	-4	-5%	78	0
	物流ネットワーク	10	0	1%	11	-1	22	3	18%	25	-3
	地域保管	28	4	15%	25	3	50	0	1%	48	2
	海外	5	-6	-54%	5	0	9	-8	-45%	8	1
	その他・共通	-2	-1	—	-3	1	-3	-1	—	-3	0
	不動産	19	-2	-10%	18	1	36	-4	-11%	36	0
	その他	2	1	105%	0	2	1	-1	-55%	0	1
	全社または消去	3	2	—	0	3	5	1	—	0	5
	合計	75	-16	-17%	76	-1	151	0	0%	166	-15

1.加工食品

- ① 売上げは前年比5%減収。家庭用調理品は餃子事件からの回復基調にあり、アイテムカットの減収要因も含めて2%の減収で推移する、業務用調理品は1Qからの惣菜売場で低価格化の進行と販売不振が継続し5%減収となった。
- ② 採算面では家庭用がNB商品中心に価格を維持、原材料コストの低下も寄与し前年比で採算が改善。業務用ではチキン加工品が前四半期と比べ回復傾向にあるものの原材料コストの低下が進まず目標未達の要因に、また惣菜売場向けの販売不振が目標未達だけでなく前年比で5億円減益の主要因となった。
- ③ 業務用低価格商品の投入を9月より開始し、惣菜売場等での売上回復を図る。
- ④ 通期予想で売上高を前回E比38億円下方修正、前回予想後に発表されたアセロラ飲料事業売却による減収影響と業務用の上半期の進捗の遅れを織り込む。営業利益は業務用の影響を重く見て前回E比24億円下方修正。

2.水産

- ① 市況に恵まれた前上半期とは一転、価格の下落が著しい上に外食を中心に販売環境が厳しく、また低採算商材の取扱いを意図的に止めたこともあって売上高は前年比15%の減収に。一方採算面は低採算商材の取扱い中止により固定費控除前の利益率は前年を上回る水準に、営業利益4億円を確保、好調な前年は下回るものの厳しい中で目標を上回る結果となった。
- ② 通期予想は売上高は前回予想据え置き、営業利益は前回E比3億円上方修正。

3.畜産

- ① 売上高は前年比18%の大幅な減収。新型インフルエンザによる一時的な豚肉の不振と、鶏肉価格の下落の影響が大きい。採算面では、収益確保を最優先し慎重な買付を続けている結果、前年は下回るものの目標通り3億円の営業黒字となった。
- ② 通期予想は売上高を56億円減額修正する。

4.低温物流

- ① 国内・海外ともに景気悪化の影響を受け始め全体では4%減収、採算面では底堅さを維持している地域保管が、景気の悪化影響とユーロ安による為替換算の目減りで厳しい状況の海外をカバーし、営業利益は目標比3億円上回る結果に。前年比は3億円の減益。
- ② 物流ネットワーク: 売上げは前年比2%増収だが目標には未達、当社冷食の取扱い減や通過型センターの売上減が採算面にも影響し営業利益も前年比横這いで目標比1億円の未達。
- ③ 地域保管: 売上げは1%減収。地域に密着した集荷活動の継続により在庫率維持し4億円の増益となった。
- ④ 海外: 売上げは30%の減収。欧州事業は為替換算の影響だけで21%の減に加え、事業面ではロッテルダム港湾以外の拠点での物量減少の影響を受け営業利益は6億円の減益。
- ⑤ 通期予想は下半期も物流ネットワークの大幅な増収目標は困難と判断、売上高を25億円下方修正。営業利益は、地域保管は上半期の超過分が貯金で残るが物流ネットワークの未達を想定し前回予想を据え置く。

5.その他

- ① バイオサイエンスでインフルエンザ検査キットの販売が拡大し1億円の増益要因に、培地の販売も好調。 3

2010年3月期第2四半期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

科目	09/9	09/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,061	1,165	-104	①
固定資産	1,772	1,707	+65	②
資産の部合計	2,834	2,872	-38	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	993	1115	-122	③
固定負債	652	625	+27	
負債の部合計	1,646	1,740	-94	
純資産の部	1,187	1,131	+55	
(うち株主資本)	1,128	1,097	+31	
有利子負債	983	1,104	-121	③
(うちリース債務除く)	731	879	-147	
科目	09/9	08/9	増減	
設備投資額	113	65	+ 47	④
(うちリース資産除く)	67	52	+ 14	
減価償却費	65	67	-1	
(うちリース資産除く)	47	49	-1	

【主な要因】

- ① 前期末に調達した現預金を長期借入金などの返済に充当した結果現預金が135億円減少。
- ② 固定資産は低温物流を中心とした建設仮勘定32億円やリース資産27億円など設備投資に伴う有形固定資産が増加。
- ③ 流動負債は、事業会社の運転資金等で短期借入金が60億円増加したが、一年内返済予定の長期借入金の返済123億円に加え社債100億円の償還を実施し流動負債全体では122億円の減少。有利子負債の減少も長期借入金の返済が進んだことが要因。
- ④ 第2四半期の設備投資の主なもの
 低温物流 福崎TC、栃木TC、北港DC
 加工食品 ベジポート(青果物流通センター)

2010年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第2四半期(累計)					通期		
		09/9	08/9	増減			(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
【営業外収支】		-6	-3	-2	【営業外収支】		-15	-6	+6
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-5	-5	-0	金融収支	③	-14	-2	+5
その他営業外収 益		+4	+6	-2	持分法投資損益		+1	-1	0
【特別損益】		+6	-23	+29	【特別損益】		-7	+21	+6
(主要項目)					(主要項目)				
固定資産売却益		+2	+0	+2	固定資産売却益		+3	-3	+3
事業譲渡益	①	+8	-	+8	事業譲渡益		+8	+8	+8
リース会計基準の 導入に伴う影響額	②	-	-17	+17	リース会計基準の 導入に伴う影響額		-	-17	0

① アセロラ飲料事業の売却による

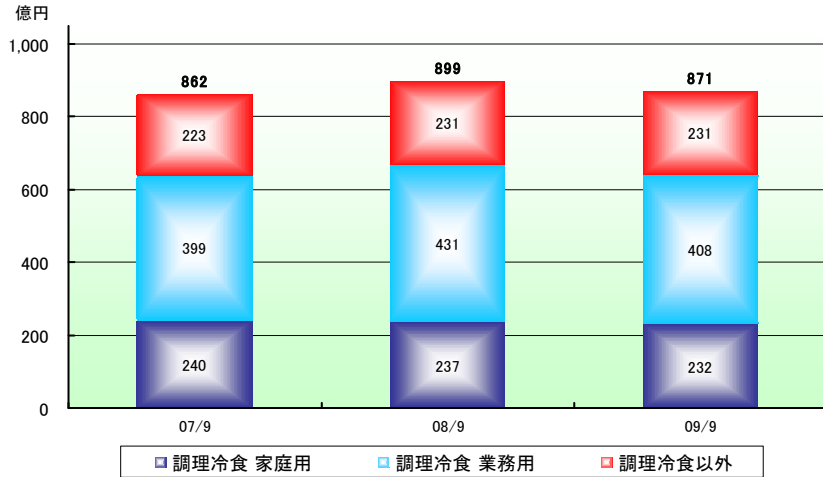
② 前期に発生していたリース会計基準の導入にともなう影響額がなくなったため

③ 想定の子払利率見直しにより営業外費用が減少

参考データ

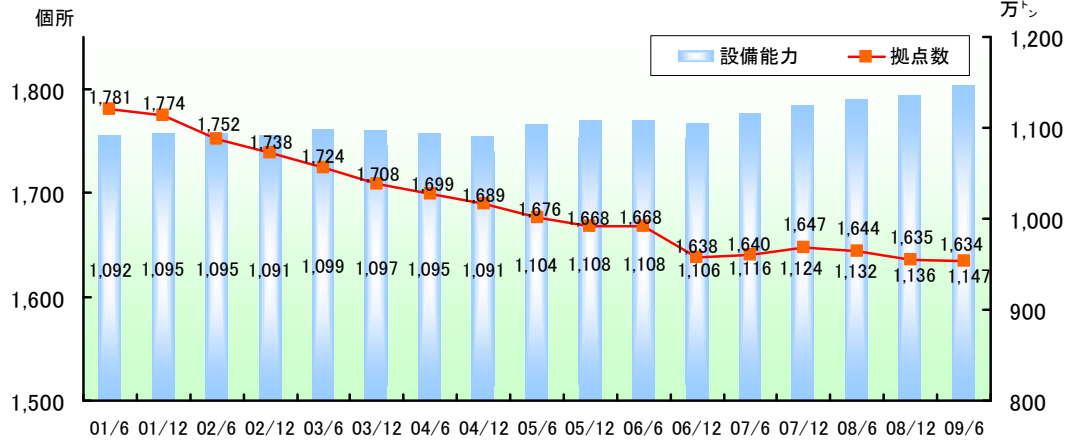
冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



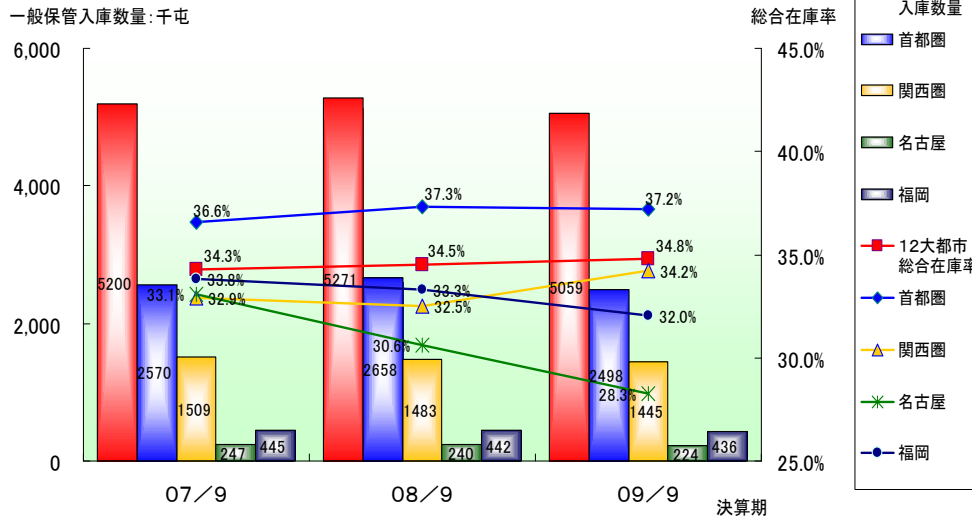
冷蔵倉庫業界収容容積推移

(日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

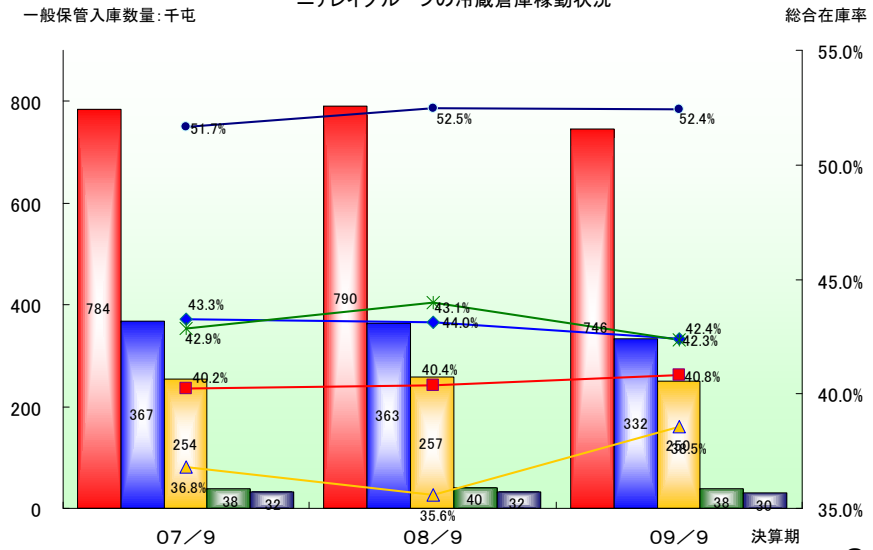


冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

業界の冷蔵倉庫稼働状況



ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



* 08/3期より12大都市に追加された札幌石狩地区、名古屋尾北地区は時系列比較の為対象に含めていない

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。